

みんなに応援してもらえる部活動にしたい



「失礼します。ちょっとよろしいでしょうか。」と、サッカー部の3人が校長室に入ってくる。「朝のあいさつ運動のことで、お願いが 있었습니다。」とのことであった。新型コロナウィルス流行以前、サッカー部は毎朝「あいさつ運動」を行ってきた。しかし学校再開後は、「密を避ける」ということで部活動単位での「あいさつ運動」はしないようにと、お達しが下っていた。そこでサッカー部は考えた。密にならない方法を考え、サッカー部としての「あいさつ運動」を復活させたいと。そこで、①15人を2グループに分け、毎日7～8人で「あいさつ運動」を行う ②1人1人の間隔をとり、マスクをしっかりと着用する ③お手本となるような大きな声であいさつをする の3点をまとめ校長先生との直談判に臨んだ。

校長先生からの許可をもらい、生徒会、自治会とともに、今日からサッカー部も朝の「あいさつ運動」に加わっている。サッカー部・あいさつ担当の佐藤亮祐くんは、「コロナウィルスのため、学校全体の士気が低下している。サッカー部が前線に立って、みんなを引っ張っていききたい。全校生徒があいさつを返してくれるようになるまで、この活動を続けていきたい。」と、取材に応じてくれた。また、サッカー部は週に1回ボランティア活動を行っているという。奉仕活動担当の青山恵澄くん(3年)は、「毎週火曜日、昇降口の傘立ての周りを掃除したり外回りのゴミ拾いなどを行っています。また月に1回、ビッグボランティアと称して若木山周辺のゴミ拾いなどを行っています。」「あいさつも礼儀も1番の部活動にするという意識で、昨年度から行ってきました。私たちの部の誇りになっています。」と活動を紹介してくれた。同じく奉仕活動担当の増川瞬くん(3年)は「みんなと一緒に活動することは、とても楽しく達成感があります。みんなに応援してもらえる部になりたいと思っています。」と話してくれた。昨年の夏から続いているボランティア活動に対し、夢色通信社では「善行賞」の表彰を検討しているらしい。



男子バスケ部の体験入部では、パスをもらってシュートまでの様々なステップを教えてもらった。体だけでなく、常に頭を使いながらプレーしているんだなと改めて感じた。シュートを入れると、なんと拍手が沸き上がる。1人1人が自分の力を発揮できる、いいチームだなと感じた。卓球部に行くと、女子では原田杏寿さん(3年)、男子では佐藤瑞羽くん(3年)と菅藤輝良くん(3年)が相手をしてくれた。「意外に上手でびっくりしました。」と瑞羽くんに言われたが、うまくあしらわれしまった。卓球が楽しく、プレーにのめり込んでいく姿が印象的だった。1年生から「上手だね。」との声も聞かれたが、「いやいや、これから2年間部活動が続ければ、3年生の先輩のように、私なんかは相手にならないくらいに上手になるはずですから。」と思いながら、体育館を後にした。

